

第3学年 国語科 学習構想案

日時 令和7年6月4日(水)

場所 3年1組教室

指導者 教諭 ○○ ○○

1 単元構想

単元名	まとまりをとらえて読み、かんそうを話そう「こまを楽しむ」 (光村図書「国語 三年上 わかば」P 53~64)		
単元の目標	(1) 全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。 (2) 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。 (3) 段落の役割について理解することができる。 (4) 目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。 (5) 粘り強く文章を読んで、段落相互の関係に着目しながら内容を捉え、学習課題に沿って読んだ感想を伝え合おうとしている。		
単元の評価規準	知識・技能 ① 段落の役割について理解している。 ((1) カ) ② 全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 ((2) ア)	思考・判断・表現 ① 「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 (C (1) ア) ② 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけていている。 (C (1) ウ)	主体的に学習に取り組む態度 ① 進んで段落相互の関係に着目しながら内容を捉え、学習課題に沿って説明する文章を読んだ感想を伝え合おうとしている。
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
段落相互の関係に着目しながら叙述を基に内容を捉えることを通して、説明する文章を読んだ感想を伝えようとする児童			
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
'○○こまで遊んでみたい!'読み取ったことを生かして、「こまを楽しむ」を読んだ感想を伝え合おう。		段落相互の関係に着目しながら内容を捉え、中心となる語や文を見つけることを通して、言葉への自覚を高めること。	
指導計画と評価計画(9時間取扱い 本時 5 / 9)			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	2	○「文様」を読み、学習の見通しをもつ。 ○練習教材「文様」を読み、文章構成を理解し、文章の内容を捉える。	【知①】(発言・ノート) ○「初め」「中」「終わり」の文章構成とその捉え方にについて理解している。
二	4	○「こまを楽しむ」を読み、学習課題に沿った問い合わせを立てる。 ○「文様」で学んだことを生かしながら、「初め」「中」「終わり」のまとまりを捉える。 ○「問い合わせに対する「答え」に着目し、段落の中心を読み取る。(本時) ○「終わり」に書かれていることを確かめ、「終わり」の役割と、「初め」、「中」とのつながりを考える。	【態①】(発言・ノート) ○感想を基に問い合わせを立て、どうすれば解決していくか課題を持っている ★【知①】(発言・ノート) ○「問い合わせ」と「答え」、「全体のまとめ」に着目し、段落の役割について理解している。 ★【思②】(発言・ノート) ○「問い合わせに対する「答え」の関係に着目し、段落の中心を読み取っている。(本時) ★【思①】(発言・ノート) ○段落相互の関係に着目しながら、文章全体の構成を整理して捉えている。
三	3	○学習してきたことをもとに、自分が一番遊んでみたいこまと、その理由をまとめ、友達に伝える。 ○P 65 「じょうほう『全体と中心』」を読み、文章や話の「中心」を捉えることのよさを感じる。 ○学習全体のまとめと振り返りをする。	★【態①】(発言・ノート) ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想を持っている。 ★【知②】(発言・ノート) ○全体と中心など情報と情報との関係について理解し、文章や話の「中心」を捉えている。 ★【態①】(発言・ノート) ○単元を通して学んだことを、自分の言葉でまとめている。

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)				
小学校学習指導要領第3学年及び第4学年				
〔知識及び技能〕（1）言葉の特徴や使い方に関する事項				
〔思考力・判断力・表現力等〕「C読むこと」				
教材・題材の価値				
本単元は、初めて「段落」の意味や働きについて学ぶ教材である。練習教材「文様」、本教材「こまを楽しむ」の二つの教材は同様の構造になっており、重ねて読むことで「段落」に基づいて全体構成をつかむ力を育むことができる。文章のまとまりを意識して読むということは今後の説明的な文章の学習の基礎となる。また、いずれの教材も伝統文化に関わる歴史をもつものである。日本文化に興味をもつ入口としても活用できる教材である。				
本単元における系統				
<pre> graph TD A[2年「たんぽぽのちえ」 順序や理由に気を付けて読む。] --> B[3年「文様」／「こまを楽しむ」 段落とその中心を捉えて読む。] B --> C[3年「すがたをかえる大豆」 話題と事例の書かれ方を捉えて 読む。] B --> D[3年「ありの行列」 段落どうしのつながりに気をつけ て読み、互いの共通点・相違点に注 意しながら感想を伝え合おう。] C --> E[4年「思いやりのデザイン」／「アップとルーズで伝える」 文章構成や段落相互の関係を確かめ、筆者の考えを捉える。] </pre>				
児童の実態（単元の目標につながる学びの実態）				
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況 (R5年度 町学力調査問題 R7年5月実施) (%)				
出題のねらい		正答率		
① 叙述を基に文章の内容を捉えている。		67		
② 叙述を基に段落の内容を捉えている。		64		
③ 目的に応じて、文章の情報を整理している。		64		
■本単元の学習に関する意識の状況 (R7年5月実施) (%)				
調査内容		はい	どちらかといえればいえ	いいえ
説明文の学習は好きですか。		43	46	110
① 教科書をすらすら読めますか。		36	46	117
② 国語の授業で「できた」「わかった」と思うことがありますか。		50	36	140
③ 国語で習ったことを、次の学習に「いかしたい」、「いかせる」と思っていますか。		43	39	144
④ 授業で考えているとき、友達の考えを聞きたいと思いますか。		71	29	00
⑤ 自分の考えを相手に伝えたり、発表したりできていますか。		29	32	390
■考察				
5月の標準学力調査(過去問実施)の結果から見ると、どの項目に対しても正答率が6割～7割未満程度である。初めて読む説明文に対して、叙述を基に文章全体や段落の内容を捉えたり、情報を整理したりすることを苦手としている児童が多い。文章全体の構成を捉えた上で、叙述を基に読み進めていく、基本的な読み方を確実に身に付けていく必要がある。				
意識調査の結果では、ほとんどの質問項目において8割以上の児童が肯定的な回答が見られ、意欲的に国語の学習に取り組んでいることや、前学年まで国語の授業について、積み重ねがあるということが考えられる。一方で、⑤の質問に対しては、肯定的回答をした児童は6割程度である。人の考えを聞きたいが、そこから自分の考えにつなげ、伝えていくことに自信がなかったり、その必要性を感じ取れていなかったりすることが考えられる。学んだことを活用していこうとする態度が育ちつつあるため、それらを活用する良さを実感できるような工夫や、ペア活動や全体での対話を意識しながら授業づくりを行っていく必要がある。よって、以下に挙げる研究の視点をもとに、学習活動の工夫を行う。				

3 研究の視点

研究主題
学びの自覚化を通した主体的な読み手の育成 ～国語科「説明文教材」を中心とした授業構想～
研究の視点
(1) 「問い合わせられる導入の工夫
① 単元をつらぬく「問い合わせ」を生む工夫
・ 6種類のこまの写真を見せ、6つの中で一番遊んでみたいこまはどれか問う。児童は、一つこまを選びそのこまを選んだわけを友達に話す。「写真だけではどれを選んで良いか分からない。」「どんなこまなんだろう。」と、教材文を読む必要感を持たせたる。そこから、これから学習で何を学びたいのかを「問い合わせ」という形で明確にする。そうすることで、教材から学ぶ必要感を持つことができるようとする。
② 学習の連続性を意識し、「問い合わせ」を更新していく工夫【本時】
・ 毎時間授業の導入で、前時での振り返りや感想を電子黒板に映し、全体で共有する。毎時間の学びがつながっていることを自覚すると共に、単元をつらぬく「問い合わせ」の解決に向けた学びの価値づけをして毎時間の授業に目的意識を持って向かうことができるようとする。
(2) 重点指導事項や既習事項をもとに組み立てる授業構成の工夫
① 学びの系統性を意識した単元計画の工夫
・ 単元計画をする際に、本教材の重点指導項目を軸にすることで、本教材で確実に学ぶ必要があることは何かを明確にする。同じ重点指導項目におけるこれまでの学びや、前教材・前学年での学びを明確にすることで、既習事項をもとにした効果的なアプローチができるようとする。
② 重点指導事項をもとに考える学習活動の工夫【本時】
・ 本教材では、段落相互の関係に着目しながら、叙述を基に内容を捉える力を身に付けさせたい。2年生までの既習教材や、練習教材「文様」を活用しながら、本教材と結びつけられるようとする。
(3) 「わかった・できた」を実感させる「振り返り」の工夫
① 考えの共有を促す学習形態の工夫【本時】
・ 自力解決場面、ペア対話の場面、全体での共有を意識した授業づくりを行う。自分の意見を伝えるために、自力解決の時間を確保する。その後、自分の考えの理由を説明したり、相手の考え方の根拠がどこにあるのかを意識しながら聞いたりすることができるよう対話活動を取り入れる。他者と考えを共有させることで、より自分の考えを深めることができるようとする。一人では分からなかった考えに出会い、他者と考えを共有することで、自分の考えを価値づけられるようとする。
② 学びの自覚化につながる振り返りの工夫【本時】
・ 本時の学びを振り返りの視点に沿って振り返らせる。自分の言葉で振り返ることで、学びを自覚するとともに、次時の学びへの意欲付けとする。また、単元の最後には、教科書の「ふりかえろう」を活用し、「知る・読む・つなぐ」の3つの視点について、振り返りを行う。本単元で学んだことをまとめ、学びを実感させるとともに、学んだことが今後につながっていくことの見通しを持たせるようとする。

4 本時の学習

(1) 目標 「問い合わせ」に対する「答え」に着目し,各段落の中心となる文を読み取ることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図,内容,方法等)
導入	5分	<p>1 単元のゴール、問い合わせを振り返る ◇ゴール「『〇〇こまで遊んでみたい!』読み取ったことを生かして、「こまを楽しむ」を読んだ感想を伝え合おう。」 ◇問い合わせ「どんなこまの楽しみ方があるのだろう。」</p> <p>2 前時の学習を振り返る。 ◇段落のまとまりを考えながら、文章全体を「はじめ」「中」「おわり」に分けた。 ◇2段落から、7段落までは、いろいろなこまのくわしい説明が書いてあった。 ◇「はじめ」には問い合わせ、「中」には答え、「おわり」にはまとめが書いてある。</p> <p>3 「中」の内容について問い合わせを持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学習課題を確認し、単元を貫く問い合わせを振り返ることで、何のために学習をしているのかを焦点化する。 ○前時の振り返りを出すことで、これまでの学びを想起し、本時の学習につなげられるようにする。 ○文様の学習を生かしながら、はじめ、中、おわりにどんなことが書いてあったか、大体の内容を確認する。 ○「中」のように長い文章を読む際に、特にどの文に着目すると、筆者の言いたいことが分かるのかということを問い合わせ、本時のめあてにつなげるようとする。また、既習事項である「もっと知りたい、友達のこと」で学んだ、「話の中心を意識しながら聞く」という経験を想起させる。 <p>【めあて】 安藤さんが、それぞれの段落で一番伝えたいこと（中心）を読み取るにはどうすればよいだろうか。</p>
展開	30分	<p>4 「中心」について知り、各段落の「中心」の文が何かを考える。 ◇Aの文だと思う。一文目のア（一文目）がない。アがないと、何のこまについて説明しているのか分からなかから。 ◇Cの文だと思う。色がわりごまのとくちょうが書いてあるウ（三文目）がないから。 ◇Dの文だと思う。こまの楽しみ方が書いてあるエ（四文目）がないから。 ◇こまの種類も、楽しみ方も書いてあるのはアの文だ。 ◇どの段落でも、「答え」の文章が中心にきている。</p> <p>【期待される学びの姿】 「問い合わせ」に対する「答え」に着目し、各段落の中心となる文を読み取っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「中心」を「筆者が一番伝えたい大切な文」であること、「その文がなければ、各段落の内容が分からなくなる」と説明し、読み取る視点を明らかにする。 ○各段落の文章を一文ずつ抜かしたものABC4種類提示する。4つの中で、「筆者が一番伝えたい大切な文がない」ものはどれかを選択させることで、中心の文の必要性に気づかせる。 ○「中心」がどの文かを考えさせる活動を2段落、3段落の文について全体で行い、4～6段落は個人で行うようとする。全ての段落において、「答え」の文がどの段落でも「中心」になることに気付かせるようとする。 ○「はじめ」に書かれた「問い合わせ」とのつながりを意識するために、線を引かせたり、音読をしたりする。 <p>【到達していない児童への手立て】 板書や、児童用のワークシートを確認しながら、「中心」の読み取り方について個別に問い合わせ、考えを確かめていく。</p>
終末	10分	<p>5 本時の学習をまとめる。</p> <p>【まとめ】 段落の「中心」を読み取るには、問い合わせに対する答えを見つけるとよい。</p> <p>6 本時の振り返りをし、次時の見通しを持つ。 ◇「問い合わせ」に対する「答え」を見つけると、それぞれの段落の中心が分かった。 ◇筆者が一番伝えたい大切な文を読み取るには、「問い合わせ」と「答え」の関係に着目して読むことが大切だと分かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「振り返りの視点」に沿って、振り返りを行う。 <p>【具体的評価規準】【思②】 ★「問い合わせ」に対する「答え」に着目し、各段落の中心となる文を読み取っている。（方法：発言、発表、シート）</p>